

## 第1回 宝塚市教育環境のあり方協議会議事録

- 1 日 時 平成23年7月13日(水)  
10:00～12:00
- 2 場 所 市役所3-3会議室
- 3 出席者 委員4名(欠席1名)、事務局職員等11名
- 4 内 容 次のとおり

### (内 容)

- 1 開会  
伊達教育長あいさつ
- 2 議事
  - (1) 協議会設置の趣旨及び設置要綱の説明
  - (2) 委員紹介・事務局職員紹介
  - (3) 今後の進め方・スケジュール等の説明
  - (4) 会長・副会長の選出
  - (5) 資料説明
  - (6) 討議等
  - (7) その他

### (主な意見・質疑等)

- (委 員) 校区はよく変わるものなのか。校区とまちづくり協議会との関係は、資料があれば次回いただきたい。
- (事務局) 直近の校区の変更については、北ひばりガ丘地区で新たに住居表示が設定されたことに伴い、教育委員会規則を改正した。校区とまちづくり協議会との関係の資料については、本日、ご用意できていない。
- (委 員) 中学校のクラブ活動などで、学校間で一緒にクラブ活動を行ったり、施設を使いあうことはあるのか。
- (事務局) 中学校の現状では、野球部やサッカー部などポピュラーな運動部はほぼどの学校にもある。人数が少なくて、1つのチームとして成り立たないときは、土曜日、日曜日にお互い1つのチームになって活動するなどの工夫をしている。
- (委 員) 余裕教室の件で、余裕教室がなくて大変だという制約感は現場から出てきているのか。
- (事務局) 少人数授業ということで全学年が使える状態にない学校がでてきている。今、プール指導のシーズンだが、男女が分かれて更衣室を確保することのやりくりをしている学校もある。

- (委員) みんなと一緒にの着替えをいやがる子どもがいるかも知れないので、いろんな配慮を必要とすることから、空き教室というのは大事な意味がある。
- (事務局) 新学習システムにより教室を二つに分けて指導すれば教室が余分に要る。また、不登校の子どもの対応やスクールカウンセラーの相談の場所を確保するなどの必要もあり、教育委員会と協力して工夫している。
- (委員) 通学区域の弾力化について、特認校や通学区の選択性は認めているのか。
- (事務局) 特認校は宝塚市にはない。弾力化については、隣接の川西市では導入している部分があると聞くが、宝塚市では導入していない。
- (委員) 通学距離の問題だが、中学校は現状でほぼ6 km以内でおさまっているか。また、それは直線距離なのか。
- (事務局) 直線距離となる。西谷小・中学校以外は概ね2 km以内におさまっている。ただし、傾斜地などではアップダウンがある。
- (委員) 私学への進学の実状はどうか。小・中学校に違いがあるのか。課題意識を持たれているのか。
- (事務局) 中学校では全市平均で約2割、小学校では5%程度である。公進率は学校によって差がある。特に対策なり、問題視はしていない。
- (事務局) 先ほどの校区の運用については、小学校5年生と中学校2年生については、年度途中で引越しされても、卒業するまで従前の学校に通っていただいている。校区の線引きについても、幾分かは弾力的な運用もしている。